

朝鮮通信使唱和集目録稿 (一)

高 橋 昌 彦

江戸時代に、隣国李氏朝鮮から日本へと十二度にわたり使節がやってきたことは、近年よく知られるようになった。日韓友好のもと、数多くの朝鮮通信使を含めた両国の交流についての出版物や各地での展覧会などにより、定着してきたものと言えるだろう。ネット上に流れるホームページやブログもまた一役買っているに違いない。筆者もかつて「和韓唱酬・筆談図書目録」(『下関女子短期大学紀要』九号、平成三年三月)を著し、使節と日本人との交流を示す書物の大概についてふれたことがある。きわめて簡便な書名一覧ともいうべきものであったが、一部の人々には評価していただき、合わせてより詳しい目録を期待された。また、当時は、図書目録等を参考にし、直接原本を確認することなく引いた書名もあり、その後の調査で訂正・補足すべき点が多々見つかつたのも事実である。そこで本稿では、筆者が何らかの形で目にした書名のみを掲げ、より詳しい情報を記すことにした。掲載したのは、原則として冊子や巻子の形態をとっている書のみで、一枚ものや漢詩文集等に一部分通信使関連の詩文・記事が含まれているものは外した。それでも紙数を多く費やすため、今回は、寛永度から

享保度までを紹介し、寛延度から文化度までは次回にまわすことにする。十二度の信使のうち、幕初三回の信使については、唱和・筆談の書冊がまだ見あたらないため、寛永十三年度より始めている。

なお、朝鮮通信使に関する参考資料としては、現在、「朝鮮通信使関係資料目録」(<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~mizna/tsushinshi/index.html>) が詳しい。

凡例

行頭のマーク○は刊本を、◎が写本、▽が諸本、◇は複数の度が合わされている典籍を表している。原則として、各度毎に、刊本を先に、写本を後に載せ、配列は五十音順としている。項目は、書名、刊写、書型、巻冊、所蔵者(機関)を記し、その後に日本側の編著者や構成等に関して載せた。所蔵者等の記載は、調査当時のもので今日移動したものも含まれている。※は備考を表し、補足すべき事項を記している。誤謬や遺漏についてのご指摘をお願いしたい。

本稿をなすに当たり、閲覧・複写等について各所蔵者・公共機関にたいへんお世話になりました。記して御礼申し上げます。

寛永十三(二六三六)年

○朝鮮人筆語 刊(マイクロフィルム) 一冊 島根大学桑原文庫

序 丁丑正月 静観子宗允 1丁

本文 15丁

江戸本誓寺 和田宗允(脇坂家家臣)

刊記 寛永二拾年癸未八月末日

※別に、同人物によるこの度の記録が『朝鮮国使日録』として残る(凶録『こころの交流 朝鮮通信使』)。

○朝鮮筆談集 刊 大本 一冊 都立中央図書館

編著者 石川丈山

本文 22丁

刊記 天和二壬戌孟秋上澣日 維邑書叢 丁子屋源兵衛新刊

▽都立中央図書館「朝鮮國菊軒筆語」は同じ内容をもつ。

◇朝鮮通信総録 八「羅山・春斎・読耕三先生筆談」 写 大本

内閣文庫

本文 半丁

十二月江戸府蕃館学士権弼筆語(羅山)

本文 53丁半

丙子筆談(羅山・春斎・読耕斎)

※筆語は『羅山文集』巻六十、詩は『羅山詩集』巻四十七所収。同じ「朝鮮通信総録八」には、他に慶長十年二月「京師蕃館僧惟政筆語」(羅山)と寛永十五年「與汪德夏 筆語」(羅山)を収める。

寛永二十(二六四三)年

○韓客筆語 写 一軸 東大史料

林羅山等

※「東京大学史料編纂所報」18に報告あり。

○韓使贈答目錄前集 写 大本 一冊 祐徳稲荷神社

本文 58丁半

寛永二十年七月七日〜八月五日 江戸本誓寺

林春斎・読耕斎等 唱酬・筆語・書

日光山詩を含む

※筆語は『羅山文集』巻六十、詩は『羅山詩集』巻四十八所収。

○寛永廿年朝鮮人來朝記 写 大本 一冊 島原市立図書館

本文 墨付29丁半。

三使及び朴真卿の日光の詩が載る。日光参拝が中心。

明暦元(二六五五)年

○函三先生筆談 写(マイクロフィルム) 一冊 東北大学狩野文庫

本文 墨付13丁半

林読耕斎と李石湖との筆談。十月九日・二十五日、岡部美濃守席

上にて会す。

※「朝鮮通信総録」の内、「柳川始末」「武器築器図」「甲申崔天倥一件」と合。内閣文庫本『朝鮮通信総録』では、十冊目に「筆談」

として所収。

◎朝鮮副使道春贈答詩 写 大本 一冊 島原市立図書館

本文 墨付12丁。

乙未孟冬 秋潭居士。乙未仲冬二日、羅山。

◎韓使贈答目錄後集 写 大本 一冊 祐徳稲荷神社

本文 83丁半 唱酬・筆語・書

林春斎・春信・人見友元・坂伯元等

明暦元年十月二日～十一月一日 江戸本誓寺

◎明暦元朝鮮人来朝記 写 大本 一冊 島原市立図書館

本文 墨付22丁。

日光参拝の記事。

識語「右朝鮮信使来朝次第或侍殿中見之或聞其執役者所語粗記之以

為一帖而藏於家示子孫 承応三甲午曆十二月 源忠房」

天和二（一六八二）年

○桑韓筆語唱和集 刊 半紙本 一冊 都立中央図書館

目錄 1丁

朝鮮側姓名（天和二壬戌八月七日付） 1丁

本文 25丁

京都本國寺 熊谷了庵、滝川昌榮

※目錄によれば、このあと木下順庵の詩・進物と続き、「朝鮮人筆

談并贈答詩」の内容に合致する。更に目錄には

「一 林春常筆談并贈答之詩之事

一 人見友玄贈答詩之事

一 山田元欽送答詩之事

一 東福寺長老衆與二使送答詩之事

一 諸国筆談贈答之事」

とあるが、それに該当する刊本は未見である。

▽東博蔵本には、巻末に「今此唱和集所々改而令開板乎以此一卷為初

巻後卷令追々板行然故其目錄載之者也 天和二壬戌天十二月吉辰

御幸町通丸田町上ル町 泉屋善兵衛」とある。

▽中野三敏先生蔵本には、外題簽「朝鮮人筆談并贈答詩 下」がある。

○朝鮮人筆談并贈答詩 刊 半紙本 一冊 都立中央図書館

本文 5丁半

天和二壬戌秋八月六日 江戸本誓寺

木下順庵・蒙窩堀正僕・義斎黒川玄達

進物 2丁

唐人口通事并朝鮮言葉阿蘭陀言葉

黄檗山通事言葉付り法事列座役者之次第 4丁

○東使紀事 刊 大本 一冊 刈谷

東使紀事 3丁半

信使姓氏職号 4丁

両東唱和 18丁半

著者 巖城山人 清修館

姓板坂、名為篤、字子恭、号晚節斎、館伴岩城

八月廿二日に学士成琬の旅館に刺を投ず。

八月廿三日、小山朝三に憑て逢う。以下廿五日・九月一日・六日・七日・九日・十日・十一日・十二日。

卷末「天和二年季秋十八日 岩山清修館／右以清修館之艸本卒模写之頗有錯簡歟／武江痴龍書」

刊記 天和三癸亥歲正月吉日 丁子屋源兵衛 梓行

◎牛窓詩 写 半紙本 一冊 岡山市立中央図書館

本文 墨付10丁

著者 富田元真稿

七月二十一日、於牛窓公館

※『吉備文庫』第二輯所収。

◎韓客酬唱録 写 横本 一冊 萩博物館

本文 墨付11丁半

著者 山田原欽(復軒)

八月廿九日・九月二日 本誓寺 筆語・唱酬

卷末「文政九丙戌四月 世良姓」

◎韓使手口録 写 大本 一冊 内閣文庫

序 天和壬戌玄臘 鶴山道人書 1丁

本文 46丁 筆語・信使の在江戸の記録

林整宇・鶏峯・春庵・伯立等

八月廿三日～九月十二日 本誓寺

▽韓人手口録 写(マイクロフィルム) 一冊 東北大学狩野文庫

序 元禄四稔春正月己亥書曲肱軒南窓下 1丁半

序 天和壬戌玄臘 鶴山道人書

本文 右序からそのまま本文「鶴山筆談」が続く。49丁 人見竹洞と学士等の筆談。服彪の唱和も含む。

▽鶴山筆談 写 大本 一冊 中野三敏先生
本文 墨付24丁

◎西京筆語 写(マイクロフィルム) 一冊 東北大学狩野文庫

本文 51丁

柳川震沢と信使との筆談・唱酬が主。他に木下菊潭・小原大丈軒など。

◎壬戌韓使唱和 写 大本 二卷二冊 祐徳稲荷神社

本文

卷乾 54丁

卷坤 31丁

林春宗・林整宇・南春庵・坂漸軒・中村興ほか多数

◎壬戌韓人詩 写 大本 一冊 祐徳稲荷神社

本文 6丁

壬戌仲秋 朝鮮国滄浪子題

佐々木玄龍との唱和・筆語

◎鮮桑筆語 写 大本 一冊 内閣文庫

序 天和二年壬戌秋九月下澣 日下道標題 半丁

著者 日下道標題 本草に關して質問したもの

本文 19丁

八月廿八日 東都本誓寺

卷末「明治十五年二月十三日華族徳川昭武蔵書ヲス」

◎天和二年韓客唱和 写 大本 一冊 早稲田大学服部文庫

奉書・返書等 9丁

水戸公との書 18丁

詩の贈答 26丁

林春宗・林整宇・南春庵・坂漸軒・鶴山・山田復軒・村井元易

筆語 5丁

佐々木玄龍

◎東都筆語 写(マイクロフィルム) 一冊 東北大学狩野文庫

角書「盤谷筆語／滄浪筆語」

本文 盤谷筆語 2丁

滄浪筆語 44丁半

柳川震沢との筆談・唱和

◎任処士筆語 写 大本 一冊 内閣文庫

本文 27丁半 筆語が主

大高季明、居士溪堂、佐玄龍(把筆) 壬戌之秋八月

正徳元(一七一二年)

○雞林唱和集 刊 大本 十六卷十六冊 山口県立山口図書館

見返し「正徳辛卯新鑄／書坊 玉芝堂壽梓／鷄林唱和集／時丁熙朝

四海仰維新之化徳播殊域三韓脩善隣之儀今書／同文何仮象

胥惟詩言志畢見鳳毛霧縠氷紉誇三都之杼柚繡／金曼玉操兩

邦之声音爰攬詞英式附繡梓隨得編録序無後先／尚供來葉之

美談永貽文林之遺芳 瀬尾維賢謹誌

序 正徳歲次壬辰五月朔 松崎祐之書 4丁

韓使官職姓名 6丁

雞林唱和集編目 12丁

本文

卷一 26丁

東武 整宇(林信篤大学頭又号鳳岡)・快堂(林信充七三郎／

信篤子)・退省(林信智百助／信充弟)

卷二 28丁

東武 葛廬(林信如又右衛門)・桃原(人見野沂又兵衛)・香

山(人見野浩七郎左衛門)・雪江(人見行察帶刀)・月川(莊

良資藤左衛門)・幾庵(和田長房伝蔵)・湛庵(安見宗恒文平)

・訶亭(深尾南直権左衛門)・省斎(深尾南謙権十郎)・鶴汀

(桂山義樹三郎左衛門)・恭軒(徳力良顕十之丞)・卓窩(秋

山正房半蔵)・二水(津田玄孝武左衛門)・池庵(佐々木玄龍

万次郎)・東溪(飯田隆興佐仲)・寧斎(上島英勝驛蔵)・雪

江(樋口榮清弥門)・謙亭(片岡敦勸助)・梅塙(渥美種光忠

五郎)・蘭峴(小見山羽儀忠兵衛)・竹堂(熊谷直平伝兵衛)

・耐軒(依田易喜左衛門)・華陰(佐藤吉之丞)・竜沼(小谷

虎清蔵)・尚斎(小倉貞実操／長州萩城記室)

卷三 23丁 東武 明敬(岡島璞玉成)・林竹(岡某)・秀竹(岡某)・吟

竹(荒瀬某)・随竹(小川某)・貫隆(城州伏見人)

卷四 33丁

京師前編 甘白(松崎祐之多助／京司紀侯書記)・肅斎(松本

秋潭新蔵／陸州会津書記)・若水(稲彰信又号白雪山人／賀州金沢書記)・浚新(青地貞叔源次郎／賀州金沢武官)・敦素(大町質正淳／京師儒士)・篤志(土井東野／丹後州宮城儒士)・東泉(田中親長源内／京師儒士)・立軒(喜早清在平馬／勢州山田祠官)・橘洲(向井誠安／洛陽醫師)・敬亭(中村知連次郎左衛門／京師人)

卷五 31丁

京師後編 甘白・若水・浚新・竹敦(江村若虚宗実／京師人) 卷六 35丁

京師後編 真山(松下子節見樸／讚州松山記室)・梅宇(伊藤長英重蔵／防州徳山記室)・介亭(伊藤長衡正蔵／京師儒士)・竹里(伊藤長準平蔵／京師儒士)・寧幹(佃重蔵／勢州津城記室)・省菴(武部敏好古／京師医士)・東菴(松井元規胡云／南京人)・古梅園(松井元泰和泉椽／元規子)・蘆文水(深江庄左衛門／京師人)・勉齋(布田直正伯／佐渡州人)・恒軒(神戸棟景隆)・梧桐子(井上勝知伝四郎／長崎人)・東泉・東臯(有馬光章新助／京師儒士)・丹菴(長岡同資子協／江州膳所医官)・僧辰・周恩・智門・葉菴(前田道通／洛城医士)・用拙齋(瀬尾維賢源三郎／京師人)

卷七 31丁

浪華前編 頤神(別宗縁長老／相国寺賜紫沙門)・葦野(伊藤由言齋宮／賀州金沢儒士)・菊叢(前田子續市之進／備中州松山儒官)・篤所(北村可昌伊兵衛／京師儒士)・東泉

卷八 26丁

浪華前編 鶴溪(福島末茂造酒丞／勢州山田祠官)・立軒・南楼(河島正郷与三／賀州金沢人)・恒山(若杉左忠／肥前州人)・若水(入江兼通／摂州富田人)・橘洲・一時軒(岡西且惟中／浪華人)・用拙齋

卷九 29丁

浪華後編 篤所・梅所(唐金興隆喜右衛門／泉州佐野人)

卷十 18丁

浪華後編 彦岑(隆丕／浪華大聖山不動寺僧)・正立齋(今西春光元珉／浪華医士)・若水

卷十一 40丁

諸州前編 对州、長州赤間関 周南(山県孝孺少助／長州萩城記室)・真雅(佐々木源六／長州萩城記室)・縮往(佐々木平太夫／長州萩城記室)・居敬(岬場頑扶兵蔵／長州萩城記室)・防州岩国 圭齋(宇都宮三的／防州岩国記室)、播州室津甘谷(木村梅菴／播州竜野人)、城州淀 拍山(淀城医官)、江州大津 空因子(河野玄通堯／大津医生)、濃州大垣 菊隱(梶川氏)・随月(岡田三朴行義)・困勉齋(鳥居玄琳光義)・春竹(北尾忠信義)・春倫(北尾誼仲正)・道仙(吉田直行方)・道順(児玉氏)、同州今須 叔山(辻守参)、参州吉田 携謙(中野繼善善助／吉田侯儒臣)、遠州浜松 正数(尾見氏／浜城武臣)、駿州富士、同州清見寺芝岸(巨龜山清見寺僧)、豆州三島 介亭・熊陽(藤江平介)

卷十二 28丁

諸州後編 豆州三島 熊陽、遠州浜松 正数、參州赤坂 忠恕菴、同州吉田 搗謙、尾州起邑 坦軒(野中国恒彦左衛門/尾州武臣)、濃州大垣 随月・困勉斎・操甫(松野重義周越)・又古(武田武重吉助)・養順(高野澹寧静)

卷十三 30丁

諸州後編 濃州大垣 春竹・春倫・道仙・当壮菴(北尾春圃)・東梅(北尾信貞唯今)、江州彦根 泰源(小松寺僧)、同州森山 同州膳所、同州大津 帶湖堂(西村德峰/大津人)・雷峰(三井山下大練寺僧)

卷十四 24丁

諸州後編 播州室津 九臯(鶴見清八郎/姫城儒臣)、長州赤間関 周南・居敬、筑前州藍島 鉄相(筑前州博多光明寺僧)・松堂(神屋亨原明/筑前州博多書生)・春菴(竹田定直助太夫/筑前州博多儒臣)

卷十五 39丁半

補遺 基珍(中大夫拾遺藤侯)・桃原・松堂(植長老/建仁寺賜紫沙門)・叔雲(松龍谷)・巽軒(木下房祥大章左衛門/京師儒士)・興山(瑞応/江府浅艸大松寺僧)・柳浪(山脇敬美伯玉/賀州医官)・桃溪(坂井順元/賀州医官)

刊記 正徳壬辰夏五月 御書物所 出雲寺和泉掾・瀬尾源兵衛・御書物所 唐本屋清兵衛合刻

○榎客通筒集 刊 大本 三卷三冊 内閣文庫

朝鮮通信使唱和集日録稿(一)(高橋)

見返し「正徳初元年辛卯鏤行/三韓使星旌雄才於扶桑六十州之中/

榎客通筒集/萬嶽老宿揚美譽於析木數千里之外 洛下書肆 臨泉堂誌」

序 北邨可昌叙 3丁半

榎客通筒集姓氏 1丁半

編著者 慈照小徒 祖冲祖會編

内容

別宗大師祖縁、江州の人、姓源氏・氏佐々木・戊戌の年金沢に生まれる。

摂州浪速にて韓使を迎える。

卷一 22丁

卷二 23丁半

卷三 16丁

刊記 正徳二年壬辰五月穀旦 文臺屋次郎兵衛・同儀兵衛 開板 摂州河口船上臨別筆語 2丁

慈照小徒 祖冲祖會録

辛卯臘月十八日

○坐間筆語附江関筆談 刊 大本 一冊 国会図書館

見返し「寛政新刻/日本白石先生筆語/朝鮮趙泰億輯/坐間筆語附

江関筆談 全/平安書肆 群玉堂梓」

序 天明己酉正月甲子 平安鈴木公温識 1丁

年次なし 鳩巢主人室直清題 1丁

本文

坐間筆語 6丁

新井白石

江関筆談 13丁半

趙泰億輯 正徳元年十一月 江戸

刊記 京二條通高倉角 八文字屋正兵衛

※写本多数あり。『新井白石全集』四所収。

○七家唱和集 刊 大本 十卷十冊 国会図書館

総目 1丁

本文

班荊集 二卷 上―22丁半 下―15丁

木下菊潭、附兒島景範(順庵門人)

正徳和韓集 二卷 上―23丁 下―21丁半

高玄岱、附高但賢(長男)・高倫庸(次男)

支機問談 一卷 36丁半

三宅観瀾

朝鮮客館詩文稿 一卷 24丁

室鳩巢

桑韓唱酬集 一卷 10丁

服部寛斎

桑韓唱和集 一卷 27丁

土肥霞洲

寶館縞紵集 二卷 上―20丁 下―22丁

祇園南海

刊記 正徳壬辰臘月 出雲寺和泉掾・瀬尾源兵衛・唐木屋清兵衛

合刻

○桑韓医談 刊 大本 三卷二冊 内閣文庫

序 正徳壬辰七月之吉 北尾権春倫書 3丁

本文

卷上 15丁

正徳元年季冬朔夜 大垣桃源山全昌詩

姓藤、氏北尾、名春圃、字育仁、号當壯庵

朝鮮側奇斗文との本草に関する問答

卷下 11丁

卷上からの続き

付録 11丁半

医論・治法について

跋 正徳壬辰初秋之望 岡行義(精齋) 1丁

刊記 正徳三年癸巳孟春吉日 皇都書肆 萬屋喜兵衛板行

○日光山八景詩集 刊 大本 一冊 福岡大学附属図書館

新刻日光八景引 正徳壬辰春二月 中大夫長州刺史源好古謹識 2丁

本文 14丁

玄堂(東叡大王)他十六名の日本人の詩文とともに、趙泰億・

任守幹・李邦彦・李東郭の詩を載せる。

姓名 2丁

○問槎二種 刊 大本 五卷五冊 国会図書館

見返し「松柏堂・玉芝堂繡梓／問槎式種 翻刻必究／問槎畸賞合三

冊／廣陵問槎録合二冊」

問槎崎賞叙 正徳玄黙執徐之歳寧玄之月上弦之夜雪華道人田中省省

吾書 5丁

問槎二種目録 1丁

本文

秋本須溪輯・吉田孤山校

問槎崎賞上 36丁

山県周南・入江若水

問槎崎賞中 27丁

安藤東野・秋本須溪

問槎崎賞下 29丁

藤侯・周南

跋 正徳壬辰八月望 吉有鄰書 4丁

正徳壬辰之秋 南郭服元喬 4丁

序 正徳壬辰秋九月望 東都物茂卿撰 6丁

本文

山田崎山録・藤田榛溪校

廣陵問槎録上 30丁

味木立軒

廣陵問槎録下 32丁

寺田臨川

※寺田臨川の唱酬筆談の原本は、「韓客唱酬筆語」(卷子一卷)として後裔が今に伝えている(『広島藩・朝鮮通信使来聘記』解説による)。

○両東唱和録 刊 大本 二卷二冊 国会図書館

見返し「正徳辛卯新鐫／鐫旨星稠 藻思綺合／両東唱和録／一 此

集随獲而編録之故不為序次／一 唱酬之外別録韓客等之詩

是説項斯之意也／浪速 日新堂蔵板」

序 正徳二年歳次壬辰季春 戲蝶翁書 1丁

目録 2丁

本文

卷上 27丁半

由己(山内元春)・退斎(山内久作)・春翠(福原玄圭)・賀

世(寒川氏女)・近信(舟木立敬)・雪溪(松本彦三郎)・榮

泉(古林温洞)・春翠(安藤養節)・舊徳・勘宜(深見勘兵衛)・

守株子(渡瀬二郎兵衛)・養軒(鈴木氏)・友竹(人見氏)

卷下 29丁

隆吉(渡辺将監)・恕軒(井狩新平)・蘭洲(北尾芳安)・益

睡(横井安節)・及肩(太田庸徳)・雅儔(斎藤弥右衛門)・

甘泉(稲津氏)・尹将(渥生辰三郎)・若水(入江氏)・方弼

(戸田氏)・文庵(山田芳仙)・大雄(汾陽庵)・玄圭・彦岑

(不動寺)・榮儀(忍教)・寂順(徳照寺)・慧明(寶珠院)・

瑞眼(幽霞窟)・別宗(縁長老)・大拙

正徳元年九月十九日から 浪速津邨本願堂にて

○両東唱和後録 刊 大本 一冊 内閣文庫

後録 7丁

正徳元年辛卯秋九月十四日

意専(片岡氏)・貞柳(永田氏)・溪南(村上氏)・周南(村上氏溪南男)

別録 9丁半

朝鮮側の人物の詩、清見寺芝岸にあてたものが中心

韓使官職姓名 3丁

柱記「日新堂新刊」

刊記 正徳二年歳次壬辰季春 浪速書林 村上清二郎・植田伊兵衛

壽粹

○両東唱和続録 刊 大本 一冊 岩国徴古館

本文 14丁

備前牛窓唱和 全慎軒(土肥氏)・河楽(松井氏)・剛斎(山田氏)・如瓶子(小原氏)

刊記 正徳壬辰歳九月穀旦 浪速書林 村上清二郎・植田伊兵衛

東武書林 升屋五郎右衛門 壽粹

▽新刊/両東唱和録 刊 大本 四巻四冊 ソウル大学

外題「新刊/両東唱和録 一」「新刊/両東唱和録 二」「新刊/両

東唱和後録 三」「新刊/両東唱和続録 四」

本文

両東唱和録二巻は同じ。唱和後録は、後録が12丁、別録10丁。刊

記なし。唱和続録は、13丁半、刊記は同じ。後に補訂し、まとめ

て出版されたものか。

◎牛軛唱和詩 写 横本 一冊 岡山市立中央図書館

表紙墨書「正徳元年九月十一日」

本文墨付 14丁

牛窓客館 松井良直(号河楽、備前州主学官)

※同時の『牛窓詩藻』(岡山市立中央図書館蔵・『吉備文庫』第四

輯所収)は、河楽・小原大丈軒・山田楽楽の三名が、牛窓で信使を

待つ間に唱和したもの。牛窓本蓮寺には、寛永二十年から正徳元年

までの使節漢詩書軸が残る(『牛窓町史 資料編Ⅱ』に翻字)。

◎韓客詞章 写 卷子 四巻 慈照院

別宗祖縁(相国寺塔頭慈照院僧侶)との江戸における唱和を巻物に仕立てたもの。

箱書「正徳辛卯宗大和尚承命接伴/韓人於江府有唱酬許多篇梓行于

世/矣而今輯韓人所記似詩箋装褱以/為四軸永置于慈照文庫」

◇韓客酬唱録 写 卷子 一巻 小倉家

著者 小倉尚斎

江戸浅草本願寺 製述官との筆語・唱酬(自筆)

※享保度の卷子二巻と同じ書名

◎韓客贈答別集 写 大本 一冊 内閣文庫

朝鮮側の贈物目録 3丁半

本文 107丁

通信使姓名 1丁

正徳元年十月廿七日。江戸東本願寺。

林信篤・信充・信智、門下官儒十三人及び学生七人。

葛盧林信如・桃原人見知後・香山人見浩・雪江人見行察・月川莊

良資・幾庵和田長房・湛庵安宗恒・訥亭南直・省齋南謙・鶴汀桂
山義樹・恭軒徳力良顕・卓窩秋山正房・二水津田玄孝・東溪飯田
隆興・寧齋上島英勝・雪江樋口栄清・謙亭岡敦・梅塲渥美種光・
蘭畹小見山宗郷・竹堂熊谷直平・耐軒依田処易・池庵佐玄龍
朝鮮側 李東郭・巖龍湖・南泛叟

十一月二日・五日・六日・八日。詩の贈答が中心。

◇韓使唱酬録

写 卷子 一卷 岩国徴古館

著者 宇都宮圭齋編

正徳度と享保度の唱和を合装したもの（自筆）

奥書「享保癸卯春日京師藤長胤書」

◎縞紵風雅集

写 大本 十三卷八冊 雨森芳洲文庫

本文

第一冊 卷二 39丁

信使の詩

第二冊 卷三・四 65丁

室鳩巢・中野搗謙

第三冊 卷五・六 23丁

松崎甘白・稲生若水

第四冊 卷七 45丁

第五冊 卷十・十一 53丁

第六冊 卷十四 39丁

第七冊 附集卷一・二 60丁

第八冊 附集卷三・四 51丁

※『雨森芳洲全書一』所収。

◎正徳和韓唱酬録 写 大本 一冊 金沢市立図書館

本文 墨付31丁

伊藤幸野と信使との筆談・唱酬

大坂・江戸間、九月〜十二月

※『白雪樓集』卷十六・十七に同内容所収。『日本近世初期における渡来朝鮮人の研究——加賀藩を中心に——』に解説がある。

◎辛卯韓客贈答 写 大本 一冊 国会図書館

本文 60丁

辛卯十月二十七日初見 於江戸

林信篤・林信充・林信智と東郭等三書記との唱酬

蔵書印「治城内庫」

◎辛卯韓人来聘尾陽倡和録 写 中本 一冊 蓬左文庫

内題「正徳元年辛卯朝鮮来聘」

通信使姓名 3丁

奉書・復書の写し 2丁

唱和 18丁半

十月五日 於尾州

横田宗益・幡野養源・野中坦軒・天麟・濤百川・葛巻長頼・葛巻

長庸・大田東作・雨森芳洲

◎辛卯唱酬詩 写 大本 一冊 都立中央図書館

外題「唱酬詩」(ミセケチ「癸未紀行」)

本文 5丁半

岡重熙(姓源、氏岡、名重熙、字一慣、号林竹、長門州産、江戸住)・岡秀竹・荒瀬唸竹・小川随竹

この四人と東郭との唱酬
以下軸跋などが付されている 全13丁

◎辛卯和韓唱酬 写 大本 一冊 都立中央図書館

外題「正徳元年辛卯朝鮮記」

別宗の富士山詩と信使たちの唱和(辛卯孟冬) 5丁半

来聘記録 4丁

本文 25丁

正徳元年辛卯十月廿七日

林信充・信智・信篤・信如・人見桃園・香山野浩・莊月川・湛菴
安宗恒・幾菴(和田伝斎)・訥亭・省斎・桂山義樹・徳力良頭・

秋山卓窩・津田玄孝・雪江との唱酬

滄浪と人見桃源の往復書

鳥山輔寛の詩「観朝鮮三使入坂陽」(七絶)を最後に付す。

◇朝鮮聘使唱和集 写 大本 一冊 清見寺

本文 墨付15丁

慶長十二・寛永二十・明暦元年の信使の詩 5丁

内題「正徳元辛卯仲冬下浣／朝鮮人鼈山唱和」

芝岸(八世住持)・陽春(嗣法比丘) 10丁

識語(裏見返し)「小海主忍書一本贈濬窩々々謝云小卷辛勤付我帰

即此冊也」

表紙墨書「清見十二世洪安和尚書之」

※『清見寺綜合資料調査報告書』

◇山縣周南等与朝鮮信使唱酬筆語 写 卷子 一卷 天理図書館

山縣良斎・周南・棠園の三代が、それぞれ三度の信使と交流した

ものを合装(自筆)。

正徳が周南、享保が良斎、寛延が棠園。於赤間関。

◎藍嶋倭韓筆語唱和 写 大本 二冊 福岡県立図書館竹田文庫

本文 32丁半

竹田定直、神屋松堂と信使との筆談・唱和

十九日、廿一日、廿四日

同じ内容の草稿本二冊を合綴したもの

両方ともに同じ丁数

卷末「正徳辛卯季秋 竹田定直書」

※九州大学檜垣文庫に同本あり。

享保四(二七一九)年

○藍島鼓吹 刊 大本 一冊 柳川古文書館伝習館文庫

見返し「藍嶋鼓吹／日東平安書舖柳枝軒蔵板」

序 庚子之夏 伊藤長胤識 4丁

享保庚子孟夏 筑前州竹田定直撰／男定澄写 3丁

編著者 小野士厚(字于麟、一字玄林、号東谿、年二十八、筑前州

医臣)

本文 27丁 詩の唱和

答韓客問 己亥八月九日

末「享保四年歳次己亥八月小野士厚識」

跋 享保庚子臘月三日書于伊賀名張旅館平安松岡成章書 1丁

新增東國輿地勝覽序 徐居正 4丁

八道總図 9丁

八道の図 庚子孟春 平安城書舖柳枝軒茨城方道書 半丁

▽京都大学附属図書館近衛文庫本は、「新增東國輿地勝覽序」以下がない。

○客館羅察集 刊 半紙本 二卷一冊 内閣文庫

著者 吳下 蘭臯木実聞著

前編 9丁

享保己亥九月十六日 張州呉都

晁德涵とともに会う。

後編 16丁

十月二十五日 性高院

内容は学士・書記・医官との筆談が多い。ハンゲルなども見える。

刊記なし

○桑韓唱酬集 刊 大本 四卷三冊 国会図書館

序 享保己亥臘日 坂陽河間正胤長孫書 1丁半

編著 浪華河間正胤校閱

本文

卷一 20丁

松井河楽 (元備前学校官、名良直)

山田剛斎 (氏松木、今山田、名定経、字孟贇、別号剛斎、称楽々

子、備陽国侯小吏)

和田斎省 (姓平、氏和田、名正尹、字子温、号省斎、備前州学官

書生)

牛窓における唱酬・筆語

卷二 19丁

「享保己亥臘月上浣尼洲老甫田中黙容識」の識語をもつ信使に
関する論一編 (3丁)

桃園 (撰州尼城小臣、姓河澄、名正実、字伯采、号桃園)

節軒 (尼城腐儒、姓田中、名黙容、字言興、号節軒)

於兵庫津

衣尚

於室津

卷三 9丁

碩軒 (八田主馬、一字充本、名朝國、姓源、号碩軒、十有六)

中大本・三村親信・河間見隆

於大坂

附卷 13丁半

蘭溪 (林長春堂、姓築山、字龍安、名克脩、号蘭溪、浪華人、医

者)

於大坂

刊記 享保五庚子歳九月吉日 浪華 心斎橋筋南久太郎町 河内屋

宇兵衛・同筋淡路町 噎口太兵衛

○桑韓唱酬集追加 刊 半紙本 一冊 岡山県立図書館

牛転唱詩印行残詩自序 享保庚子臘月某亥 松井良直河楽 1丁

著者 松井良直

本文 5丁半

刊記 享保六年辛丑餘月吉日印行

○桑韓唱和墳麓集 刊 大本 十一卷十一冊 国会図書館

見返し「皇和享保己亥ノ附列朝韓使來聘考ノ桑韓墳麓集ノ京華書坊

奎文館発行」

序 享保庚子花朝 平安前田時棟父秉翰於松山喰霞館 2丁

列朝韓使來聘考 3丁

韓使官職姓名 5丁

目次 3丁半

凡例 半丁

卷一 8丁

可竹(天竜寺月心)・石霜(東福寺即宗院)

東武 尾見正藪

尾州 翠篁堂・宅澁軒・山崎朋崇

卷二 30丁

尾州 玄洲・蘭阜・福島鶴渚・野中久敬・井出保合

卷三 23丁半

濃州 北尾春圃・春竹・春倫

卷四 20丁

濃州 北尾春倫

卷五 25丁

濃州 北尾道仙・春達・春乙・菅海山・大竹玄圃・伊藤立仙

卷六 29丁半

江州彦根 小野田盛英

同州大津 服部齊省・本山求其・和田恕庵・中村由己・衣笠不克

子・西村箴斎

浪華 日比自周斎・芳庵・松井晚翠・西村觀瀾

卷七 35丁

浪華 水足屏山・出泉・藤原菊洞・伊藤龍洲

卷八 19丁

備後州 門岡東郊

防州上関 宇都宮圭斎・飯田葵陽・朝枝毅斎

卷九 30丁半

飯田寛斎・林剛斎

卷十「韓客筆語」

瀬尾用拙斎・工藤矯宇

韓客筆語序 享保庚子上巳前一日 用拙散人自序 1丁

本文 26丁

刊記 享保五年庚子夏五月穀旦 瀬尾源兵衛藏板

卷十一補遺 16丁半

水足習軒・前田葉庵・粟屋文蘭・戸川整斎

○桑韓星槎答響 刊 半紙本 二卷一冊 内閣文庫

見返し「享保己亥韓使來聘唱和ノ桑韓星槎答響ノ平安書林 柳枝軒

刊行」

韓人來聘官位姓名 5丁半

卷上 23丁半

享保四年六月二十九日 虎崎

月心(可竹和尚)と製述官・書記との唱酬、筆談、往復書

卷下 21丁半

卷上と同じ。芳洲・霞沼の詩も掲載

刊記 享保四孟冬吉旦 平安 六角通御幸町西江入町書舗 茨城多

左衛門繡粹

○桑韓星槎余響 刊 半紙本 一冊 東博

本文 20丁

著者 可竹

刊記 茨城多左衛門

附 八道総図 9丁

最後に庚子孟春柳枝軒書という識を半丁付す。

○梅所詩稿 刊 大本 二卷二冊附一冊 中野三敏先生

見返し「梅所詩稿／梅所君詩若文不下数千首是集其所唱和諸名公者

可謂彩／奪夜光飾重明月也然君自為不足屢欲焚毀余輩懇求

持謁／西溟潮和尚得其批評整理上梓其後編附韓人作若干篇

併／以公世海内諸君子冀一賞焉 豫章堂／日新堂全梓」

序 享保庚子秋七月 西溟積大潮 4丁

内題「梅所詩稿卷上 享保戊戌己亥」

「梅所詩稿下 己亥韓客唱和并文」

「附韓人文」

編著者 泉南 唐金興隆著

本文 卷上 40丁半

卷下 28丁半

附韓人文 35丁半

後序 享保己亥孟秋日 伊藤長胤書 3丁

※内容は通信使関連の唱和がほとんどを占める。附卷は、梅所に贈った韓人の詩文を纏めたもの。東北大学狩野文庫蔵の「附韓人文」は、この附卷である。

○蓬島遺珠 刊 半紙本 二卷一冊 内閣文庫

編著者 吳下玄洲朝文淵著

本文

前編 12丁 筆談が中心

後編 14丁 詩の唱酬 卷末に木下蘭阜・朝比奈玄洲の名が付さ

れている。

附 1丁 尾州名護屋林春庵と青泉申・成嘯軒の詩の唱和が載る。

刊記 享保五庚子年正月吉辰 皇都書林 押小路通柳馬場東江入町

安田万助 梓

○両関唱和集 刊 大本 二卷二冊 内閣文庫

序 享保庚子之春 伊藤長胤 3丁

目次 1丁

前編 迎芳詩篇 享保四仲秋 赤間関 21丁

縮往(佐々木平太夫)・良斎(山県子成長白)・居敬(草場中

朝鮮通信使唱和集日録稿(一)(高橋)

三二

草豹蔵)・芝澗(小田村孺熙文甫)

後編 送往詩篇 享保四仲冬 竈門関・赤間関 27丁半

尚斎(小倉貞実撰)・竹甫(山根清七郎左衛門)

跋 享保庚子之夏 長州野人佐重潜跋 2丁

刊記 享保庚子五月朔 京師書坊 唐本屋八郎兵衛梓行

○和韓唱和集 刊 大本 二卷二冊 国会図書館

見返し「享保己亥之歳／鳥山先生門人／和韓唱和／書肆貫道軒蔵版」

目録 1丁

韓客姓氏 1丁

卷上 20丁

鳥山先生古風一篇・入江若水・難波如砥・高井観天・田中琴山・

東鳳國子

卷下 28丁半

北山青洲・池田南溟・宮崎仲卑

大坂本願寺における唱酬・筆談

刊記 享保六年辛丑年三月吉祥日 高麗橋壹丁目 淺野彌兵衛重光

◎藍嶋唱和集 写 大本 一冊 秋月郷土館

内題「藍嶋倭韓唱和集」

本文 墨付18丁

榊田琴山と学士・書記等

八月三日～九日

内題「藍嶋唱酬」

本文 墨付10丁半

古野元軌(梅峰)稿

八月四日通刺、五日贈答、七日文会

◇藍嶋唱和集 写 大本 合一冊 榊田家

内題「藍嶋和韓唱和集」

本文 22丁

八月三日～九日 榊田琴山

藍嶋唱和集後編

本文 6丁半

歸路十二月十二日 琴山

※明和度と合一冊。

◎韓館倡和稿 写 大本 一冊 都立中央図書館

内題「信陽山人韓館倡和稿」

著者 春台太宰純徳夫父著

本文 19丁半

享保四年十月六日 東都本願寺

春台・大凡石叔潭・須溪秋子帥・筑前記室原泉稲有伯の四人

が雨芳洲を介して学士・三書記と会い、唱酬・筆語を行う。

※「文王・章王外紀」を付す 14丁

◇韓客酬唱録 写 卷子本 二卷 小倉家

著者 小倉尚斎

歸路の上関・赤間関での学士・書記等との唱酬筆語(自筆)

※正徳度と同じ書名

◎享保四年韓客唱和 写 大本 一冊 都立中央図書館

題王陽明書帖 己亥小春下朔 朝鮮國菊溪居士題 1丁半
本文

享保己亥九月五日付 朝枝世美の信使への呈書が五編 7丁半

九月六日、朝枝世美（名世美、字德濟）・伊藤宜齋・松本新藏・

入江若水が大坂客館で学士・書記に逢う。

世美と学士・書記との唱和 5丁半

同答問 4丁

浪華唱和合草 6丁

入江兼通（若水）と学士・書記との唱和（芳洲も加わる）

進物・記録・行列（人員） 12丁

禮賓筆語 5丁

伊藤梅宇と嘯軒との唱和・筆語

◎韓客筆語 写 一卷 天理図書館

備後鞆の浦福禪寺、伊藤梅宇と嘯軒・青泉との唱和・筆談問答（自

筆）

巻頭「韓客筆語引」享保十五年庚戌重陽前日伊藤長胤誌

◎航海献酬録 写 半紙本 一冊 都立中央図書館

本文 14丁

享保己亥九月八日 大坂西本願寺

水足安直・安方 唱酬・筆語

巻末「西肥 由庚写焉／平橋藏」

料紙 罫が刷り、柱に「松林堂藏版」。

▽航海唱酬並筆語 写 大本 一冊 中村幸彦先生

全 15丁

奥書「原本與右衛築山氏所藏深秘帳中而不出故人間所罕觀也文化戊

辰正月新禧余訪過稟恭喜主人勸酒米四在側相和余賦一絕主人

出舊作談語數刻因及博泉敏捷之狀於是以前客唱酬詩卷指示余

素渴望此卷久矣不勝悅請寫主人許諾是以余家亦藏焉云哉

凌雲主人境嘉題

時維文政五年戊午春三月下旬拜借謄寫」

▽航海唱酬 写 大本 一冊（後書と合） 熊本県立図書館上妻文庫

目次 1丁

序 享保辛丑春二月 東都物茂卿撰 1丁半

通刺・唱酬・筆語 水足屏山 10丁半

唱酬・筆語 水足出泉 7丁

付録 3丁

韓客会筵録 3丁

唱酬所座次之図 半丁

三使官位姓名 1丁

唱酬 水足習軒 3丁

追加 1丁

巻末「文化六年己巳初秋七月上旬把筆□□旬投／小野惊壽詩德」

奥書「右航海唱酬一卷三拾三枚昭和廿四年十月十日起筆同十六日卒

業本書誤字脱字多善本を得て校正すべし 観想園主鏤斎半首

散人識」

▽客館唱和附筆語 写 前書と合一冊

本文 15丁半

奥書「右客館唱和附筆語老冊拾六枚半平野健人氏藏本を寫す昭和廿

六年五月十八日起筆五月廿一日写畢 上博識」

◎三林韓客唱和集 写 大本 一冊 国会図書館

日本側姓名 半丁

本文 59丁

大学頭(信篤、直民、整宇、鳳岡)・七三郎(信充、士儔、翼斎、

龍洞、快堂)・百助(信智、禹玉、退省)

享保四年九月二十九日 浅草本願寺

三使・学士との詩の唱酬

附「韓客筆語」

姓名 半丁

本文 10丁

問三林 答正副使・学士

蔵書印「備陽岡山学校書籍」

※朱がかなり入る。「朝鮮對詩集」巻上と同じ内容。「韓客贈答」

(九州大学檜垣文庫)と同一内容。

◎朝鮮對詩集 写 半紙本 二巻二冊 内閣文庫

上巻(一冊目) 77丁半

享保四年九月二十九日 浅草本願寺

林信篤・信充・信智、信使との唱酬・筆語

朱点・書き入れ多し。

下巻(二冊目) 93丁半

葛廬(林又右衛門)・桃原(人見又兵衛)・鷺洲(人見七郎右衛

門)・幾庵(和田伝蔵)・鶴汀(桂山三郎左衛門)・有隣(得力

十之丞)・卓窩(秋山半蔵)・二水(津田武右衛門)・池庵(佐

々木万次郎)・東溪(飯田左伸)・寧斎(上島彈蔵)・龍岳(小

出義兵衛)・岬岳(小見山中兵衛)・天水(雨森三哲)・翠陰

(太田治大夫)・竹窩(天津源之丞)・柳塙(川副兵左衛門)・

桑園(松田新蔵)・金巒(真木弥市)・桂軒(小見山次郎右衛門)・

雪溪(井上左衛門)・東里(星野小平太)・素行(吉田清次郎)・

貴溪(村上舍人)・黄陵(岡井彦太郎)・芝山(岡井金治)・廣

澤(細川次郎大夫)・援之(岡島援之)

十月三日会集

十月五日会集

十月七日会集 すべて唱酬が主

※「享保己亥韓客贈答」(国会図書館蔵)に同じ

◎朝鮮對話集 写 半紙本 一冊 内閣文庫

内題「韓客／不怨斎不尤所對話／初會十月五日／再會十日十日」

目次・姓名 1丁

本文 31丁半

書簡五篇・尺牘一篇・詩六十五首・筆語二十三条

長澤 字字素位号不怨斎一号東海丁丑生

主字行賤号不尤所一号瀛洲又号日海己卯生

父粹菴名無己字純平

蔵書印「浅草文庫」「林氏蔵書」「昌平坂学問所」

◎德濟先生詩集附韓客贈答詩文集 写 大本 一冊 岩国徴古館

内題「德濟先生詩集」5丁(但し1丁目破れ)

「德濟先生漢人贈答詩文集」6丁

「筆語」4丁

享保四年九月十五日 朝枝世美

裏見返し墨書「寛延元秋九月 中芷徑蔵」

(つづく)